慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	経済学に於ける実践理性の演繹
Sub Title	
Author	武部, 与八郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1926
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.20, No.10 (1926. 10) ,p.1296(94)- 1320(118)
JaLC DOI	10.14991/001.19261001-0094
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19261001-0094

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

經濟學に於ける實踐理性の演繹

武部與八郎

一

三圓は三圓であると共に四圓五圓六圓……である。一般に、n圓はn圓であると共にn+m圓である。是は如何にして可能となるか。

ものを知るは現在の經驗と過去の經驗との相對的關係に於て知るのであると考へられる。經驗は「雪達磨」の如く轉々として增大する。經驗の增大は如何にして可能となるか。(一)過去の經驗の中に發展の契機が藏されて居る。部分は全體に等しく部分は全體よりも大である。此場合、常に增大して止まぬ現在の經驗も過去の經驗より演繹せられ得る。(二)現在の直接なる經驗が過去の經驗を觸發する。現在の直接なる經驗が機械化された過去の經驗に發展の機緣を與へる。此場合、現在の經驗は過去の經驗より演繹せられ得る。過去の機械化された經驗が現在の直接なる經驗に觸發せられる限りに於て。

三圓が其自身の中に四圓五圓六圓……たり得る契機を藏するは如何にして可能となるか。三圓が勞働の價格であり效用の價格であるが故である。人間の勞働は對象的に三圓の價格を四圓五圓六圓……に創造する。人間の意慾は三圓の價格を主觀的に四圓五圓六圓……に創造する。效用は、意志に依て創造せられたものの價値に考へられる。緊張感が意志に伴ふ。不足を滿足せんとする緊張感は「效用」に認められる。不足を滿足せんとする緊張の感がないか或は滿足せられた時、效用は消滅する。連想に依る效用も可能である。一應次の如く言ふ。勞働或は效用(意慾)は三圓を四圓五圓六圓……に創造する。n=n+mの理解を可能ならしめる。貨幣である。

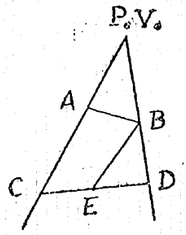
一人一日の勞働力は三圓である。彼の勞働力に依て生産せられた商品は現に六圓に賣られて居る。次の如く假定する。此勞働者は發明せぬ組織せぬ自ら毫も努力せぬ彼の働くは余儀なく働くのであるヨリ多くの能率を擧げん事を意志して働かぬ彼の勞働を原始の土地に投下すれば三圓の價格を有するものを生産するに過ぎぬ。此假定の下に於ては勞働力自身の中に發展の契機は藏されて居ぬ。彼の勞働力はn=n+mを理解せしめぬ。然るに彼の勞働力に依つて生産せられたものは現に六圓に賣られて居る。六圓の價格は彼の勞働力の對象的創造力を觸發する。六圓に依つて觸發せられ、彼の勞働力に對象的創造力を與ふるは、勞働力を有するものの「意志」に考へられる。(A)六圓の價格はn=n+mを理解せしめる(B)三圓の勞働力を所有するものの意志はn=n+mを理解せしめる。六圓の價格、三圓の勞働力を有するものの意志、は貨幣である。

三圓の勞働力を所有するものの意志は必ずしも六圓の價格の觸發を待たぬ。效用に於ける意慾と同じく、其自身對象の價格を創造する。意志の自由を認め且つ諸意志を矛盾なく理解する爲、諸意志の階段組織が必要となる。道德律が必要となる。實踐理性の演繹に從ふ。双の腕を出して十本の脂を見る。妻子の脂が重なる。隣人の五本七本九本……の脂が往復する。十萬百萬の機械の脂が

感せられる。世界を構成する個體10個あり10個に限るとすれば、11の個體の存在は是を知り得ぬ。10＝11, 10＝11＝12, 11＝12＝10, ．．．一般に 10＋n＝10 である。10＋n＝S に取れば S は數1の增減に無差別である。或る商品の價格は10圓である。10圓の商品に對して認められる效用は10圓よりも大であると推定せられる。10圓の商品に對して認められる效用をUとする。10圓の商品に對して認められる效用は無數にあり得る、u_1、u_2、u_3．．．。10圓の商品に對して如何なる效用が認められようとも價格10圓は價格10圓である。效用u_1、u_2、u_3．．．は無差別である。效用Uは1の增減に無差別である。或る一人一日の勞働力の價格は三圓である。勞働力の再生產に必要以上の時間働く。價格は費された勞働に依て定まるものとすれば、勞働力Lの價格は三圓以上である、l_1、l_2、l_3．．である。但し勞働力は現に三圓に取引せられてゐる故l_1、l_2、l_3．．．は無差別である。勞働力Lは1の增減に無差別である。一組が1を加へても不變なる一數を有つと言ふは、該組に屬せぬ一項xを取る時、その領域が該組であり、其逆領域が該組にxを加へたものなる、一對一の關係を見出し得ると言ふ事である。換言すれば(一)全體に等しい部分が存在すると言ふ事である(二)或る一ッの意志が他の一ッの意志に從屬する事である(三)一對一なる可き意志が事實上一對多である事である。

價格は悟性概念效用は主觀的內的直觀の形式故價格と效用とは一對一の關係をなす。領域は價格の組(P)、逆領域は價格の組に余剩の一項xを加へた組(u)である　效用のない價格は存在せぬ價格のない效用は無意義である。價格と效用とは相似である。P圓に等しくP圓より大なる價格Sは此の二ッの相似なる組Pとuとの組である。Sに於て一ッの意志は他の一ッの意志に從屬する。多くの indifferent にせられた意志が存在する。價格Sを、領域價格P、逆領域勞働l、の組に取る場合も同じ。但しSは現實に存在する何等かの價格に制約せられるものとすれば、意志の從屬關係、indifferent にせられた意志、も制約せられる。勞働力三圓の價格、三圓の價格が創り出す六圓の價格、參照。

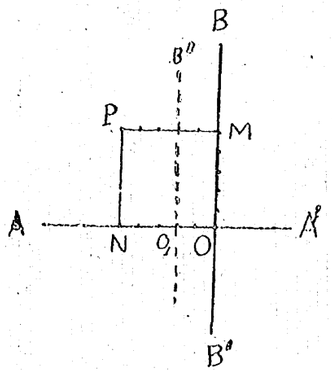
第一圖



P圓はP圓であると共に P＋x（圖）である、P＝P＋x。P^{+x}は其自身の眞の一部分に相似なる組故反射的組である。P＝P＋xを理解するものSは反射的組の數である。

反射的基數である。幾何學的に次の如く表はされ得る。第一圖に於てP.V.は配景の中心、AB上の凡ての點はCD上に對應の點を見出し得る。CD＞AB且つCE＝ABならばCDは反射的組、此配景的觀察は反射的基數に考へられる。第二圖に於て、AA′、BB′は互に直角に交はる二ッの直線。OはAA′、BB′の交點座標の原點。點P（5,−5）は第二象眼にある一點である。軸OBをAA′に直角を保ちつつ二單位だけAの方向に移動して軸O_1B''を得る。新たなる座標軸に對して點Pの座標は（5,−3）に表はされる。$A\hat{O}B$と$A\hat{O}_1B''$とは共に直角故「點Pを直角に見る」點に於て變りはない。點Pの二ッの座標(5,−5)(5,−3)は「直角に見る」限りに於て無差別である。−5＝−3. 線分ON從

第二圖



てMPは反射的組、「直角なる座標」は反射的基數に解し得られる。

「七圓の價格」は「七ッの項を有する系列」に考へ得られる。「七圓の價格を有するもの」は凡て「七ッの項を有する系列」に考へ得られる。七ッの項を有する系列は限りなく多くあり得る。

1	2	3	4	5	6	7	
2	3	5	7	8	9	11	
1	$2\frac{1}{2}$	$4\frac{4}{5}$	$8\frac{1}{7}$	9	$10\frac{1}{3}$	13	
……	……	……	……	……	……	……	
$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{2}$	$2\frac{4}{5}$	$3\frac{1}{3}$	$3\frac{5}{7}$	$4\frac{1}{6}$	5	
0.5	0.8	0.9	1.2	1.6	2	3	
……	……	……	……	……	……	……	

「七ッの項を有する系列」なる一關係の關係數（R.N.）は次の如く表はされ得る。

$$\text{R.N.}_{(7)} = \begin{cases} 7 \\ 11 \\ 13 \\ \vdots \\ 5 \\ 3 \\ \vdots \end{cases}$$

其自身目的なる意志（二）常に目的として取扱はれ決して手段として取扱はれ得ぬ程の意志（三）全體の存在を可能ならしむるが如き一組員、を求める。其自身目的なるもの、決して手段として取扱はれ得ぬもの、全體の存在を可能ならしめる一組員　はある可き十分なる理由を有するものである。

商品は價値通りに賣られざるが一般であり價値通りに賣られるは特別例外の場合に限る。關係數としての價格は是をよく理解せしめる。1を加へても減しても無差別なる數を理解するは大切である。

一ッの意志を他の一ッの意志に從屬せしむる事をせぬ。凡ての意志を唯一ッの意志に歸一せしめんとする。（一）有る可き十分なる理由を有するものは生命をもつ、ある可きものをあらしむるは精神である。（一）（二）（三）の追求を可能ならしむる原理は精神に求められる。

一級數は一對一の關係である。領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項あり且つ領域が此一項の後裔と同一なるが如き一對一の關係である。（A）「價格三圓」を領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項に取る。「三圓の價格を有するものの效用」は逆領域「三圓の後裔」4、5、6……n、n+1、……と同一である。「三圓の價格を有するものの效用」は一般に三圓より大であると考へられて居る。領域「價格三圓及び三圓の價格を有するもの」は逆領域「價格三圓の後裔」4、5、6……n、n+1……（圓）と一對一の關係をなす。「三圓の商品」は一級數をなす。一般にn圓の商品は一級數をなす。（B）「價格三圓」を領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項に取る。「三圓の價格を有する勞働力」は逆領域「三圓の後裔」4、5、6……n、n+1……（圓）と同一である。勞働力は價値を創造する程のものに考へられて居る。領域「價格三圓及び三圓の價格を有するもの」は逆領域「價格三圓の後裔」4、5、6……n、n+1……（圓）と一對一の關係をなす。「三圓の商品」は一級數をなす。一般にn圓の商品は一級數をなす。勞働の創造力が制約せられる場合、級數は制約せられる。

「或る價格」n圓を領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項にとる。「n圓の價格を有するものの價値」は逆領域「n圓の後裔」n+1、n+2、n+3、……（圓）と同一である。領域n圓とn圓の價格を有するものの價値と逆領域價格n圓の後裔n+1、n+2、n+3、……（圓）とは一對一の關係をなす。「n圓の商品」は一級數をなす。即ちn圓の商品はn、n+1、n+2、n+3……（圓）である。

（系列A）　1,　2,　3,　4,　5,……n, n+1. ……
（系列B）　1,　3,　5,　7,　9,……
（系列C）　2,　4,　6,　8,　10,……
（系列D）　1,　2,　$2\frac{1}{2}$,　$3\frac{3}{7}$,　$4\frac{4}{5}$,……
（系列E）　5,　$6\frac{1}{3}$,　$7\frac{5}{8}$,　9,　$13\frac{3}{4}$,……
……
……
……
……
……

系列A、B、C、D、E……は凡て移他的、非對稱的である、一級數をなす。系列A、B、C、D、E……は凡て互に一對一の關係をなす、相似である。三圓の商品は一級數である。四圓の商品は一級數である。五圓の商品は一級數である。……。級數は凡て相似故三圓の商品四圓の商品五圓の商品……は相似である。無差別である。三圓の商品は一級數である、3、4、5、……n、n+1……（圓）。四圓の商品は一級數である、4、5、6……n、n+1……（圓）。級數である事を主として考へる場合三圓の商品と四圓の商品とは無差別である。三圓の價格を有するものの效用、四圓の價格を有するものの效用の立場から價格三圓と價格四圓とは無差別である。三圓の價格を有する勞働力、四圓の價格を有する勞働力の立場から、三圓と四圓とは無差別である。一般に價格n圓の價値の立場から、n圓とn+m圓とは無差別である。部分は全體に等し。

互に相似なる無限系列の數をn_0（エヌ零）と呼ぶ。n_0は互に相似なる無限系列諸組の組である。n_0は$n=n+m$の理解を可能ならしめる。貨幣である。$n_0+1=n_0$, $n_0-1=n_0$, 一般に$n_0+m=n_0$, $n_0^m=n_0$, 一般に$n_0^m=n_0$はよく理解し得られる。n_0は心理學的なる意志的統覺或は最大多數の最大幸福に考へ得られる。

價格の系列は0、1、2、3、4、5、……n、n+1……（圓）に考へられる。（一）夫々の價格はn_0である。一級數をなす。（二）夫々の價格はn_0である從て$1=2, 2=3, 3=4, \ldots n=n+1, \ldots$である。數2は$n_0$である限り數1の存在を可能ならしむる手段として存在せぬ、其自身存在する、全體に等しい一組員である。3、4、5……n、n+1……に就ても同じ。（三）夫夫の數がn_0であると言ふは、「多くのもの」が「唯一ッのもの」に歸一せられ得ると言ふ事に同じ。此旨示を徹底して、數2、3、4、5、……n、n+1……を凡て數1に約元する。（四）數1を領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項に取る。n_0は逆領域「1の後裔」2、3、4、5……n、n+1……と同一である。領域1とn_0とは逆領域「1の後裔」2、3、4、5……n、n+1……と一對一の關係をなす。「1なるもの」は一級數をなす。一級數をなす「1なるもの」はZ_0（ゼット零）に記號せられる。Z_0を組n_0と組nとの組に考ふる事も可能である。Z_0に於て數3は數4であると共に又た明かに數3である。$3=4=3, 4=5=4, \ldots$從て、其自身を目的とする事、如何なるものをも手段にせぬ事、全體に等しき部分である事、はZ_0に於て一層純化せられる。部分は全體に等しく部分は全體より小である。Z_0は$n=n=n+m$を理解せしめる。貨幣である。Z_0を國定貨幣に考ふるは隨意である。意志の自由と、自由なる意志の普遍妥當性とは

Z_0に於て完全である。Z_0は純粹なる實踐理性であると考へ得られる。

價格の系列は0 1 2 3 4 5 ……n_{n+1}……（圓）に考へられる。（一）0は一數であるとすれば、0はn_0でありZ_0である。部分は全體より小である、部分は全體に等し。（二）0は一數でないが數の存在の爲には是非豫定せられざるを得ぬものであるとすれば（A）n_0、Z_0であると共に（B）n_0、Z_0以上の或るものである。此場合部分は全體よりも大である。（三）數の普遍妥當性はZ_0、「1なるもの」、單純なる實體に於て、限りなく大であるが、Z_0に於て部分は全體より大でない故、生命其者の爲或は常に增大して止まぬ生命の爲、全體よりも大なる部分を把握する形式が求められる。神は全體より小なる部分、全體に等しき部分及び全體よりも大なる部分を把握する形式に考へられる。唯單にある可きものをあらしむるのみならず、任意のものの創造を可能ならしむる形式に考へられる。單純なる實體數1は全體よりも大なる部分を可能ならしむるものの一歩手前にあるとも考へ得られる。

（四）神の創造は（E）全體に等しき部分の創造に始まる（A）悟性概念は凡ての非nなるものをnに理解する（B）10個の悟性概念範疇は一かたまりの「位」をなして 10＋n を其の部分に理解する（II）部分が非部分の存在を可能ならしむる爲、實踐理性の對象の世界の存在を可能ならしむる爲、部分は全體より大なる部分でなければならぬ（C）然らば10以上の任意の數を可能ならしむる位取りの單位としての數0は神の形式に一致する（D）數10は數1に相似であると共に又た神の形式に相似である（E）數1はZ_0として單純なる實體である。單純なる實體から神への道は二ッに考へ得られる（イ）數1から數0へ飛躍する（ロ）飽く迄數の中に、然も神と同一なる形式を有する數に於て即ち數10に於て神を求める（III）數9の繼承者であり、Z_0なる數1と相似且つ神の形式なる數0に相似なる數10は本來の單子と呼ばれ得る。（F）單子は數9の繼承者としても、である。悟性概念としての數9の繼承者として全體に等しき部分である。機械的なるものである。10以上の凡ての數の存在を可能ならしむるもの、實踐理性の對象の世界を可能ならしむるものとしてZ_0なる數1に相似である。目的的なるものである。神の形式數0と相似なるものとして全體よりも大なる部分である。（五）「位取り」一般は精神に考へられる。

自然數の系列0 1 2 3 ……n_{n+1}……は一級數をなす。數0は領域には屬するが逆領域には屬せぬ一項、Z_0は、逆領域數0の後裔1 2 3 ……n_{n+1}と同一である。領域0 1 2 3 ……n_{n+1}……は逆領域1 2 3 ……n_{n+1}……と一對一の關係をなす。「數」は一級數をなす。數理的歸納の原理は次の如くである「0に屬する特性にして且つ該特性を有する各數の繼承者にも亦屬する特性は何れも總ての數に屬する」（A）0に屬する特性にして且つ該特性を有するもの數10の繼承者11 12 13 ……にも屬する特性は何れも凡て、總ての數（イ）1 2 3 4 5 ……n_{n+1}……（ロ）n（ハ）n_0（ニ）Z_0に屬する。神は素朴的實在觀、悟性的認識、意志的道德的實踐的認識の凡てを可能ならしめる。（B）數1は數0に相似である。數0に屬する特性にして且つ數1の繼承者にも亦屬する特性は何れも總ての數に屬する（イ）1 2 3 ……n_{n+1}……（ロ）n（ハ）n_0は凡てZ_0の特性を有つ。（C）數1は任意の一數と相似である。0に屬する特性にして且つnの繼承者にも亦屬する特性は凡て、總ての數に屬する（イ）1 2 3 ……n_{n+1}……（ロ）nは凡てn_0の特性を有つ。（D）0に屬する特性にして且つ　の繼承者n_{n+1}にも屬する特

性は凡て、總ての數に屬する。0圓0錢は $\mathfrak{n}=\mathfrak{n}+\mathfrak{m}=\mathfrak{n}$ 及び $\mathfrak{n}\vee\wedge\mathfrak{n}+\mathfrak{m}$ を理解せしめる。全體より小、全體に等し、全體より大なる部分を理解せしめる。價格の悟性的認識と實踐的認識とを共に理解せしめる。貨幣とは0圓0錢の事である。貨幣3、貨幣n、貨幣n_0、貨幣Z_0、貨幣0圓0錢は區別せられる。

（一）自然數の系列 0 1 2 3 ……n n+1 ……は一系列をなす。ヨリ大の關係に於て一順序をなす。非對稱的移他的連絡的である。1+1=2, 2+1=3,…… である（A）數1は數1に就て眞である、數2は數1と數2に就て眞である。……。數1は數1を自變數とし數1に就て眞なる函數である（1）.φ(1)

數2は數1數2を自變數とし數1數2に就て眞なる函數である（1, 2）.φ(1, 2) 一般に（a）.φ(a)。

（B）一般的なる數nは任意の歸納的數xを自變數とし該數に就て眞なる函數である $\phi!\hat{x}$。（C）n_0は一般的なる數nを自變數とする函數である $\psi, \phi!\hat{x}$)。（D）Z_0はn_0を自變數とする一函數である（F）.$\psi(\phi!\hat{x})$（F）（イ）ψ）: $Fz \equiv z$. ψz Z_0はn_0に形式的に相等しく（且つn_0はnと形式的に相等しく（且つnはn_0に內容せられて居る）（ロ）⊢:（∃F）: $\hat{\psi}$. ≡ .Fs

⊢:（∃φ）: $\hat{\psi}y \equiv y$. $\phi!x$) n_0はnと形式的に相等しく（且つnはn_0に內容せられて居る）（ロ）⊢:（∃

數0はZ_0と形式的に相等しく（且つZ_0は數0に內容せられて居る。（ニ）⊢: ~q ⊃ ~P. ⊃. P ⊃ q 非五圓が非三圓を內含するならば三圓は五圓を內容する。（三）P. q. = .~(~Pv~q)價格が三圓でもあり又五圓でもあるならば、該價格は非三圓にもあらず又非五圓にもあらず、と言ふが如き事を得ぬ。

該價格はn_0圓或はZ_0である。（四）⊢: P ⊃ q. P. ⊃ : P. ⊃. q. r. n_0圓に於て三圓と n 圓とが無差別ならば五圓はn_0圓に內容せられる然らばn_0圓は三圓と五圓とを共に內含する。nの代りにZ_0を取る場合も同じ。（五）P ≡ q. = .P ⊃ q. q ⊃ P n_0圓と三圓とが形式的に相等しいならば、三圓はn_0圓に外ならざるものであり從て三圓はn圓を內含する。n_0をZ_0に取る場合も同じ、（六）⊢: P ≡ q. ≡ .~P ≡ ~q 三圓と五圓とはn_0圓に於て形式的に相等しい即ち非三圓と非五圓とはn_0圓に於て形式的に相等しい。

n_0の代りにZ_0を取る場合も同じ。（七）⊢: P. ≡ : P. q. v. P. ~q. n_0圓に於てn圓と三圓とは無差別であるか或はn圓と非三圓とが無差別であるかである。n_0とn圓或は三圓とは形式的に同じ。（八）函數φxが數0ならばφxは常に眞である（x）.φx φxがφxがZ_0を表はすものならばφxは數0を除く凡ての自變數に就て眞である。數0を表はす函數を（x）.φx. Z_0を表はす函數をψxに取れば（x）: φx. ⊃. ψx. φx

をφxに表はせば（∃x）. φx である。Z_0とn_0、n_0と任意の歸納的數に就ても同じ。（九）⊢.（P）. Pv~P

に於てPをn圓に取るならば此命題はn_0圓を豫想して居る。Pをn_0圓に取るならば此命題はZ_0を豫想して居る。PをZ_0圓に取るならば此命題は數0を豫想して居る。⊢: φxvφy. ⊃. (∃z). φz の場合は是に準ずる（十）⊢: (x). φx ≡ ψx : (x). ψx ≡ χx : ⊃. (x). φx ≡ χx. Z_0がn_0と形式的に相等しくn_0がnと形式的に相等しいならばZ_0はnと形式的に相等しい。且つnはn_0或はZ_0に內含せられて居る。

（十一）（φx, y, z). φ(x, y, z) =:(φx). :(φy, z). φ(x, y, z) Z_0が或る0、nに就て眞ならばZ_0は或る0に就て眞であり又或るn_0及びnに就て眞である。（十二）. ẑ(φz) = ẑ(ψz) ≡ (x) : φx ≡ ψx

數3と數5とが等しいならばZ_0とn_0とは形式的に相等しい。（十三）⊢: ẑ(ψz) = z(χz) ≡ : xεẑ(ψz) ≡ x.xεẑ(χz) 數3と數5とが相等しいならば數3と數5とはn（或はZ_0）に於て形式的に相等しい。

（十四）$\vdash\{\hat{x}\hat{y}\psi(x,y)\}=:(\exists\phi):\phi!(x,y)\equiv_{x,y}.\psi(x,y):\vdash\{\phi!(\hat{\phi},\hat{\phi})\}$ 三圓と五圓との關係を考へる。（A）三圓は五圓より小であるか（B）等しいか（C）大であるかである。然らば三圓と五圓との關係は三圓と五圓との關係であると共に、七圓と九圓、十三圓と十一圓……との關係である。（十五）$(R).\vdash(R)=.(\phi).\vdash\{\hat{x}\hat{y}\phi!(x,y)\}$「三圓は五圓より小」の關係に於て、三圓及び五圓を n_0（或は Z_0）に取れば、「三圓は五圓より小であるか等しいか大であるかである。（十六）$\vdash:\psi(x,y)\equiv_{x,y}.\chi(x,y):\equiv.\hat{x}\hat{y}\psi(x,y)=\hat{x}\hat{y}\chi(x,y)$「三圓は五圓より小、三圓は五圓に等し」が可能となるは、三圓と五圓とが n_0（或は Z_0）に於て、次の如く解せられるが故である。3圓＜5圓, 3圓＝5圓; 5圓＜7圓, 5圓＝7圓;……（十七）$\vdash:\alpha\subset\gamma.\vee.\beta\subset\gamma:\supset.\alpha\cup\beta\subset\gamma$ 數2は數3に內含せられ、數3或は數5は n_0 に內含せられるならば3or5は n_0 に內含せられる即ち3と5とは n_0 に於て無差別である。（十八）$\alpha\cap\beta=:x\varepsilon\alpha.\supset_x.x\varepsilon\beta$ 數3は數1を內含する。但し數3が n_0 であり、數1が Z_0 であるならば數3は數1に內含せられる。（十九）$\alpha\cup\beta=\hat{x}(x\varepsilon\alpha.\vee.x\varepsilon\beta)$ 3と5とが無差別であり得るは3と5とが共に n_0 或は Z_0 に表はされ得るが故である。（二十）$\alpha\bigcup\beta=\hat{x}(x\varepsilon\alpha.\vee.x\varepsilon\beta)$ 3或は5は n_0 或は Z_0 に於て無差別であると言ふに同じ。（二十一）$R\bigcup S=:xRy.\bigcup_{x,y}.xSy$ 關係「ヨリ小」が關係「ヨリ大」に內含せられるは「三圓が五圓より小であると共に大である」場合に可能となる。（二十二）$V=\hat{x}(x=x)$ 三圓は三圓である。三圓は n 圓としての三圓、n_0 圓としての三圓、且つ Z_0 圓としての三圓であるならば、三圓は universal class 或は單純なる實體である。三圓は五圓、七圓、……と無差別である。（二十三）$\Lambda=-V$ 數0は非 Z_0 であれば可である。Z_0 に外ならざる凡ての數は數0の一組員であり得る、但し $x\varepsilon\Lambda$ は偽である。（二十四）$\vdash:\alpha=.(\exists x).x\varepsilon\alpha$ 凡ての事物を經驗し盡し得ぬ但し少くとも凡ての事物の理解を可能ならしむる形式は存在する。（二十五）……。以上は實踐理性の演繹及び單子論參照。

一項 x は次の諸條件が成立する時一關係 P に關して一組 α の下位極限であると言はれる。（一）α が P に於て極小を持たぬ。（二）P の分野に屬する α の各組員が x に後行する（三）x に後行する P の分野の各組員が α の或る組員に後行する。「後行する」は「小大」の關係を有つ、に同じ。經濟學に於ける價格の組 α は小なるものより大なるものへの順序「小大」の順序に排列せられて居る。任意の二ツの價格 l と m とは「小大」の關係を有つ。一項 x を0圓0錢に取る。（一）三圓は四圓より小、二圓は三圓より小、一圓は二圓より小、……以下同じ。價格は「小大」の關係に於て極小を有せぬものと考へられる（二）「小大」の關係にある二ツの價格 l、m は0圓0錢より大である。後行する。（三）0圓0錢より大、且つ「小大」の關係の中にある任意の價格 l は常に何等かの價格より大である。0圓0錢は「小大」の順序に列ぶ價格の系列の下位極限である。

0圓0錢は極限の概念である。如何なる價格も其には決して到達し得ぬが價格の存在する爲には是非豫定せられざるを得ぬ程のものである。田を耕すこと、鑛石を運ぶこと、絲を紡ぐこと、其自身は價格を有せぬ、但し此等の具體的行爲がなければ價格は成立せぬ、空氣、水其他が0圓0錢の價格を有するは是に準ずる。

交換の一般的形式は A＝B に表はされ得る。A と B との交換が悟性的に理解せられる爲、A と B とは A にもあらず B にもあらず且つ A、B に共通する同じ大サの或るもの價格 P に約元せられねば

ならぬ。AとBとは價格Pに改造せられ現象せられる故等しい。今敢てAを經濟的外的直觀の形式L、Bを經濟的內的直觀の形式Uに取れば、A、Bに費された勞働或は認められた效用は、價格Pに外ならざる或るものである。此場合勞働と效用とは一義的に定まる。LとUとはPの定まれるL（或はU）である。ジョン、ミルの父（或は母）である。PはPである、Pは非Pにあらず、Pは非Pにあらざる故Pであり得る。然らばL（或はUはU）は非Pに豫想せられて居る。AはAである故、Pは非Pである。然らばLはL（或はUはU）でなければならぬ。LはLである。Lは非Lにあらず。Lは非Lにあらざる限りに於てLである。（Uの場合も同じ。以下此言葉を略す）。LがLであり得るはLが抽象的社會的必要勞働平均勞働（L_1）であるが故である。然らばL_1はLに豫想せられて居る。LがLであるならばL_1はL_1でなければならぬ。L_1は非L_1にあらず。L_1は非L_1にあらざる故L_1であり得る。L_2はL_1に豫想せられて居る。L_2を農業勞働或は工業勞働に取る。L_1がL_1であるならばL_2はL_2でなければならぬ。L_2は非L_2にあらざる故L_2であり得る。L_3はL_2に豫想せられて居る。L_3を小麥勞働に取る。L_2がL_2であるならばL_3はL_3でなければならぬ。L_3は非L_3にあらざる故L_3であり得る。L_1はL_3に豫想せられて居る。以下限りなく續く。凡ゆる方面、深さに於て追求せられる。他く迄具體的なる勞働に到達し得る。毫も價格を有せぬ程の勞働（或は效用）に迄、到達し得る。具體的なる勞働は其自身存在の理由を有するものである。其自身存在の理由を有するものは神聖なるものである。マルクス著資本に於ける經濟的悟性概念の演繹は n 圓から n。圓、Z。圓最後に0圓0錢にまで來ねば十分でないと思ふ。此處まで來ねば勞働は神聖であるとは言へぬ。

定義、分數 m/n は二ケの歸納的數 x と y との間に xn=ym なる關係が成立する時成立する關係である。マルクス著資本の研究に於て、任意の二商品の交換を A/B、A=B, A:B 其他是に類するものに表はすは素より可である。xn=ym に表はす場合便利が多い。

「AはAである」の同一律の徹底は實體論に導く。「Aは非Aにあらざる故Aである」の矛盾律の徹底は現象論を徹底せしめる。徹底的現象論は實體論に一致し得る。唯一つ唯一ッに限る現象界はユークリッド幾何學に表はされ、徹底現象界は非ユークリッド幾何學に表はされる。

同一律及び矛盾律の徹底從て現象界の純化徹底は「唯一なる順序」「絕對なる量」の否定動搖に現はれる。極限の概念は（一）量的概念よりも寧ろ關係的概念である。（二）順序的概念であつて量を含まぬ。（三）唯一ッ唯一ッに限る順序はない。悟性概念としての價格三圓或は n 圓は一ッの極限の概念としての貨幣である。貨幣 n_0、貨幣 Z_0、0圓0錢は夫々極限の概念としての貨幣である。夫々の價格 0, 1, 2, 3, 4, 5, ‥ n, n+1 ‥‥（圓）は凡て極限の概念としての貨幣である。極限概念としての貨幣の研究は、左右田喜一郎氏に負ふ。

I 貨幣は子を產まぬ（一）其自身ある可き十分なる理由を有する程のものは子を產まぬ、產む必要がない。產む場合處女が產む。0圓0錢の貨幣は子を產まぬ（二）悟性概念としての貨幣は子を產まぬ。商品は價値通りに賣られる、但し此場合、子を產むものが子を產まぬものに變造せられて居る。石女である（三）Z。に外ならざる數1は數10と相似從て數0に相似に考へられる場合、子を產まぬものとも考へ得られる。（四）貨幣 0, 1, 2, 3, 4, 5, ‥ n, n+1 ‥‥（圓）貨幣 n、n。、Z。圓は子を產むが一般

である。I（一）貨幣は子を産む限り非合理の源である。子を産む限り、子を産む必要の存する限り、貨幣に基く社會惡は除かれ得ぬものと考へられる。ブルドンの交換銀行は其自身ある可き十分なる理由を有する社會に於てのみ實行せられ得る。（二）「勞働貨幣」は「凡てのものを順序よくせんとする」（乘法の公理、其他參照）試み、或は其自身ある可き十分なる理由を有するものへの憧憬に考へられる。但し（三）唯一ッ唯一ッに限る程の順序はない（聯立主義參照）（A）凡てのものは貨幣でありと得る（B）然らば財産の私有は認められねばならぬ（四）然も尙凡てのものは順序よくせられねばならぬ。唯一純粹なる貨幣が存せねばならぬ。所有は盜みである。一なる所有がなければならぬ。III 團結した組合の力は價格 $n=n+m$ の存在を可能ならしめる sufficient reason である。$n=n+m$ の存在を可能ならしむるものは n_0、Z_0 及び數0に考へられる。n_0 は最大多數の同意、Z_0 は絶對多數の同意、數0は神の同意に考へられる（イ）$n=n+m$ の存在を可能ならしむるものは數10であり得る（ロ）n_0、Z_0 及び數0に於て $3=4, 3=5, \cdots$ 一般に $n=m(n+m)$ である事は注意に値する。

三圓は何故に三圓であると共に四圓五圓六圓 ∴ でなければならぬか。一般に n 圓は何故に n 圓であると共に $n+m$ 圓でなければならぬか。

眞なる認識とは矛盾なき認識のことである。眞ならざる認識とは矛盾ある認識のことである（一）三圓は三圓である、非三圓であつてはならぬ。若しそうでなければ經濟的認識の眞は保てぬ。（二）經濟行爲は最小の勞費を以て最大の效果を得んとする程の行爲である、目的行爲である、三圓は三圓に止つてはならぬ。三圓は三圓であると共に四圓五圓六圓 ∴ でなければならぬ。$n=n+m$ でなければならぬ。若しそうでなければ經濟行爲は成り立たぬ。（一）は經濟學に於ける悟性的眞である（二）は經濟學に於ける合目的的眞である。（一）の眞を主とするものの立場から商品は價値以上に賣られねばならぬ。（二）の眞を主とするものの立場から商品は價値通りに賣られねばならぬ。$n=n+m$ の理解を可能ならしむるものは經濟行爲の合目的性である。經濟行爲の目的は貨幣であり得る。

あるもののある可き十分なる理由は如何にして得られるか（一）生命の濫費による。存在の可能性を有する驚く可き多數の生命がある。其の中のあるものが生きる。生けるものは其の存在の十分なる理由を、ある可き可能性を有するものの生命の濫費に見出す（生物學參照）。生命を有するものは存在の十分なる理由を有するものである、存在の十分なる理由を與ふるものは精神である。存在の十分なる理由はある可き可能性を有する生命の濫費による。精神はうごめく數多の生命の存在をよく知つて居る（二）生命の濫費は物の生命人の生命の濫費に考へられる。人間の生命は物の生命、同僚人間の生命の濫費に於て存在の十分なる理由を見出し得る（A）濫費せられる同僚人間の生命は生ける人間の生命の存在理由をなす點に於て物と異ならぬ（B）存在の十分なる理由を與ふるものは精神である。物と同僚人間の生命の濫費は生ける人間の生命に十分なる存在理由を供する。濫費せられた物と人とに於て精神が見出される（C）夫々の人間の生命は凡て他の人間の生命の存在理由である。夫々の人間の生命の中に精神が見出される（三）苦痛なくして生れるものはない、苦痛はある可き十分なる理由を得ることの苦痛である、濫費せらる可き生命の貯藏に伴ふ感情である（四）濫費せらる可く貯藏せられた生命の使用は快樂の感を伴ふ。快樂を求めるは（A）ある可き十分なる理由を

供するものを求める(B)生命の濫費を求める、に解せられる(五)幸福はある可き十分なる理由を供するもの濫費せらる可き生命の所有の意識に伴ふ感情である、凡ての人にある可き十分なる理由を供するもの、凡ての人に濫費せらる可き生命の所有の意識は最大多數の最大幸福に考へられる(六)意志はある可き十分なる理由を見出さんとする心の作用きである。意志の自由はある可き十分なる理由を見出すことの自由である。自由なるものとはある可き十分なる理由を有するものの事である。凡ての人のある可き十分なる理由を見出さんとするは道德律である。最大多數の最大幸福は一ツの道德律である(七)幸福感はある可き十分なる理由を供するもの濫費せらる可き生命の所有に伴ふもの故、手段を必要とする。他律的である。如何なる物、人の生命をも手段にせず然も凡ての人の意志に普遍的に妥當する自律的道德は社會的に求め得られぬものと考へられてゐる。社會は關係的であるを本質とすと考へられるが故である。如何なる物をも人をも手段にせず然も生けるものに十分なる存在理由を與ふるは純粹形式のみであると考へられる(八)飽く迄も純粹なる形式である。然も相對的なる事物、具體的なるものに即する程のものが求められる。悟性と實踐理性の接する處にあり、形式的に純粹悟性概念、純粹實踐理性及び神と同一、然も飽く迄具體的であるは數10である。數10一般は Entelechy 或は精神であり得る。(A)數10は數9の繼承者である物である具體的なるものである(B)n。と形式的に同一、。自由なる意志を有するもの或は實踐理性である(C)Z。と形式的に同一、純粹なる實踐理性である(D)數0と形式的に同一、神を宿して居る。方に其自身存在の十分なる理由を有するものである。カントの道德論を徹底すれば精神に迄行かねばならぬかと思ふ。

次の如きカントの言葉は有名である「二つのものあり、常に新たなる又た增して止まざる感歎と畏敬とを以て心を滿たす、其に考へ及ぶ事屢々にして且つかはらざればかはらざる程そうである。我が上なる星空と我が内なる道德律とが是である」。精神は其自身ある可き十分なる理由を有する程のものである。物と人とに即して居る、具體的なるものである。最大なるものより最小なるものに至る迄凡てを取つて殘さぬ。

如何にしてある可き十分なる理由を見出す可きかを物的且つ目的的に規定する法則が經濟法則であると考へられる。經濟法則は「最小の勞費を以て最大の效果を得んとする」に、表はされて居る。(一)ある可き十分なる理由を見出す爲濫費せらる可き生命を貯藏せねばならぬ(A)物の生命を貯藏する物の存在を可能ならしむる人の生命を貯藏する、人の生命を物として貯藏する(C)人の生命は其自身の中に發展の契機を藏するもの故、人の生命を物として取扱ふは最小の勞費を以て最大の效果を得んとする經濟の本旨に適ふ。(二)ある可き十分なる理由を見出す爲濫費せらる可き生命が貯藏せられねばならぬ(A)各個の個人を夫々濫費せらる可き生命の貯藏庫とする(B)人の連帶に於て貯藏する、社會的に貯藏する。各人を濫費せらる可き生命の貯藏庫とする事、連帶で或は社會的に濫費せらる可き生命を貯藏する事、は濫費せらる可き生命を機械的に貯藏する事、である。機械化、組織は經濟を生む、最小の勞費を以て最大の效果を得んとする旨示に適ふ。(三)ある可き十分なる理由を見出さんとする、濫費せらる可き生命を貯藏せんとする。ある可き十分なる理由の發見は生命を機械化せねば止まぬ。ある可き十分なる理由を有するものは生命を有つ。ある可き十分なる理由

の發見は生きんが爲である。其自身存在の十分なる理由を有するものに近附かんが爲である。生命の機械化は即ち生命の發見である。道德律への接近である。

經濟行爲は目的行爲である。手段を必要とする。物、人、其他を手段にする。經濟行爲は其儘では決して道德的行爲ではあり得ぬ（一）意志なきもの或は意志の認められざるものは手段として優れたものである。濫費せらる可き生命の貯藏は、最小の勞働を以て最大の效果を得んとする經濟行爲に於て、必然的に物的に導かれる。（二）凡ゆる方面に役立つ手段は優れた手段である。人は優れた手段である。機械化される時一層優れた手段である。（三）手段を目的とする時、最もよく最小の勞費を以て最大の效果を得んとするの實が擧げられる。經濟行爲は濫費せらる可き生命の貯藏、生命の機械化を目的とする傾向をもつ。（四）最も有用なる手段は凡ゆる方面に適用せられ得る手段である、經濟行爲は手段たる物を以て、生命を有するもの、其自身存在の十分なる理由を有するものに代へんとする傾向を有つ。以上より次の如く言ふ。經濟行爲は、其自身存在の理由を有するもの、生命を有するもの、を手段にする機械化する物とする。逆に、手段、物を其自身存在の理由を有するもの、生命を有するものに引上げる。

經濟行爲に於て手段と目的とは火花を散して衝突する。火花の一閃に物、人、國家、社會、道德、精神及び神を見出すは經濟哲學の一つの使命である。價格の系列は0 1 2 3 ・・・ n n+1 ・・・・・・（圓）に表はされる。（一）3圓は3圓である、3圓は非3圓であり得ぬ、若し3圓が非3圓であるならば經濟的認識に於ける悟性的眞は保てぬ（二）但し經濟行爲は合目的的實踐的故、3圓は4圓5圓6圓・・に等しくなければならぬ。若しそうでなければ經濟行爲は成り立たぬ。（三）貨幣n_0圓に於て、3圓と4圓、4圓と3圓とは形式的に無差別である。$n=n+m$ 凡ての商品は同一の價格に賣られねばならぬ。社會的に道德的にそうでなければならぬ。$n=n+m$ 故、貨幣n_0圓に於て經濟行爲は形式的に可能となる。但し事實上依然として3圓は4圓よりも小であり又3圓は4圓に等しく或は大である。其故經濟行爲が事實上貨幣n_0圓に於て可能となる（四）貨幣Z_0圓に於て $n=n+m$ であるのみならず任意の一價格nはn_0と形式的に無差別である。$n=n+m$ 故、貨幣Z_0圓に於て、經濟行爲は形式的に可能となる。$n=n_0$ 故貨幣Z_0に於て凡ての商品は同一の價格に賣られる、然も最も小なる單位に於ける同一なる價格に賣られる。價格は完全に一ッになる。限りなく0圓0錢に近附く。形式的にそうである。社會的に又た道德的にそうでなければならぬ。但し事實上、依然として、3圓は4圓よりも小であり、又3圓は4圓に等しく或は大である。其故經濟行爲は事實上貨幣Z_0圓に於て可能となる（五）貨幣0圓0錢に於て 0 1 2 3 4 5 ・・・ n, n+1 ∴ n、n_0、Z_0は凡て無差別である。$n=n+m$ 故貨幣0圓0錢に於て經濟行爲は形式的に可能である。$n=n_0$, $n_0=Z_0$ 故0圓0錢に於て、凡ての商品の價格は形式的に同一、且つ最小なる單位に於ける價格に於て同一である。$0=3=n=n_0=Z_0$ 故、凡ての商品の價格は0圓0錢に於て形式的に0となる。道德的に或は神の命に從ひそうでなければならぬ。但し事實上依然として3圓は4圓より小又3圓は4圓に等しく或は大である。其故經濟行爲は事實上貨幣0圓0錢に於て可能となる。凡ての商品が0圓0錢になれば經濟行爲或は經濟法則は完全に滿足せられる。最小の勞費を以て最大の效果を得んとする經濟行爲の目的は達せられる。0

圓0錢の價格を有するものは手段として理想的な手段である。凡ての商品の價格が0圓0錢に歸するは經濟行爲の理想である。凡ての商品の價格が0圓0錢に歸する時、濫費せらる可き生命は充足する。經濟行爲は其自身を目的とする。如何なる人格をも手段にせぬ。貨幣0圓0錢は理想的な手段である。理想である。

貨幣は目的である手段である。ある可きものをあらしむるものであると共に濫費せらる可き生命の貯藏庫である。(一)商品を主とする。人間の勞働或は慾望は商品にある可き十分な理由を供する。商品は人に於て、人間の國家、人間の社會、人間の道德、人間の宗敎に於て、存在の十分なる理由をもつ。ある可き十分なる理由を有するものは生命を有するものである。商品は死物でない、生命を有するものである。(二)人を主とする。物、商品の存在は人の存在にある可き十分なる理由を供する。此場合商品は死物である。(三)歷史は全體に等しく或は全體より大なる普遍妥當性を有する部分を見出すを本質とする。經濟行爲も同じ。(四)單子は全體に等しく或は全體より大なる部分である。單子論は一草一虫に宇宙を見る。具體的なる凡てのものの中に、人、國家、社會、道德、宗敎を見出す。單子論に於て機械觀と目的觀とは相合して居る、密である。(一)(三)(四)より、物的史觀は單子論に於て、十分なる哲學根據をもつ。(一)(二)(四)より、經濟的史觀は必ずしも物的である必要はない。何れの場合にも通じて、單子論は經濟哲學の哲學である。

二

經濟學は價格價値の研究に精しい。價格或は價値を有するもの、もの、の研究は等閑にせられて居る。商品學、商品地理學、店頭裝飾、實驗心理學的商品藝術論參照。具體的なるものとしての商品の研究は等閑にせられて居る。哲學的商品藝術論參照。具體的なるものとしての商品の理解にまで行かねば經濟的理解は完成せぬ。「價格價値より解放せられたもの」としての商品の理解に於て、經濟的理解は完成する。經濟學的美的判斷の研究に從ふ。

(一)「もの」を或る一ッの形式に從て改造する現象する等しくする普遍妥當性を得る(二)「もの」をヨリ具體的なる形式に從て改造する。現象する等しくする。ヨリ大なる普遍妥當性を得る。(一)の普遍妥當性は形式的に all、事實上 some である。(二)の普遍妥當性は形式的に又た事實上 all である。all-all である。命題的函數は all-some と all-all の組の數に考へられる。

命題的函數とは一自變數 x を含み、x に一値が與へられる時、直ちに一命題を表白するが如きあるものである。自變數 x に一値が與へられる時、直ちに表明せられる一命題は命題的函數の核心である。(一)該命題は眞或は僞を表白する諸語の一形式である(A)該命題が眞を表白する一命題である爲、該命題は矛盾を含まぬ判斷でなければならぬ、悟性的判斷でなければならぬ。悟性的判斷の一般的形式としての命題函數を ϕx に表はす(B)該命題が僞なる判斷である場合は二ッに考へられる(イ)該命題は悟性的判斷でない(ロ)自由なる意志を有するものの判斷である、悟性的に眞なる判斷であるが實踐的に僞なる判斷である。(A)及び(イ)、(ロ)を容れて尙は意味を持つ significant 判斷形式は道德的判斷の一般的形式に考へられる。道德的判斷の一般的形式としての命題的函數を ϕx に表はす。ϕx は自變數 x の凡ての値に就て眞である。$x.\phi x$ ϕx と ϕx とは形式的に相等しく且つ ϕx は ϕx

に內含せられる。命題的函數ϕxは悟性的判斷と道德的判斷との一般的形式である。判斷形式は命題的函數ϕxに於て一般化される。數學的論理學は判斷形式の一般化に成功して居る。悟性的判斷は次の如く表はされ得る。$x : \phi x . \supset . \phi x$　命題的函數による判斷形式の一般化を更に徹底せしめる。（二）該命題は眞にもあらず僞にもあらざる諸語の一形式である（A）該命題は眞を表明せぬ、從て命題的函數ϕxは悟性的判斷形式でなく又た道德的判斷形式でない（B）該命題は僞を表明せぬ、從て命題的函數ϕxは悟性的判斷形式であり又た道德的判斷形式である。自變數xに一値が與へられる時、直ちに表明せられる一命題が眞にあらず僞にあらざる時、命題的函數ϕxは美的判斷の一般的形式である。美的判斷の一般的形式ϕxは悟性的及び道德的判斷の一般的形式ϕxと形式的に同じ。美的判斷の一般的形式は悟性的判斷と道德的判斷との冠石である。「丸い四角」は美的判斷であり得る。四角は丸でない故、丸い四角は眞なる判斷でない。丸い四角の存在は自由なる意志に依つて意志せられ得るが、凡ての意志する者に普遍的に妥當する判斷でない。然るに尙ほ「丸い四角」の存在は確かであり、疑ひ得ぬものとすれば「丸い四角」は美的判斷でなければならぬ。三圓の價格を有する商品は悟性的に三圓の價格を有せねばならぬ。三圓の價格を有するものは實踐的に$\frac{1}{3}$圓の價格を有せねばならぬ。三圓或は$\frac{1}{3}$圓の價格を有せねばならぬ事はない又た三圓或は$\frac{1}{3}$圓の價格を有するも毫も差支へはない。此場合、三圓の商品は美的判斷の對象としての三圓の商品である。具體的商品である。利害打算に即し利害打算から解放せられて居る商品である。其故美なる商品である。

シュパンの經濟學方法論の根本思想

藤林敬三

一

經濟學が社會科學の一分科として科學的存立の基礎付けを要求する時、最も重要なる問題は其の對象の限定に存してゐる。而して此の事は自ら二つの任務を包含する。第一には、經濟學の對象は自然現象から區別せらるゝ社會現象の範圍に屬し、從つて此の場合には社會現象が自然現象から異なる所以が明かにせらるべきであり、第二には、社會現象の範圍に於て經濟學は如何にして其の固有の對象を限定するか、換言すれば社會現象は如何なる限定の下に經濟學の對象となるか、此の問題が答へられなければならない。是等二つの任務は又同時に、論理的に、經濟學が自然科學から區別せらるゝ社會科學たるの所以を明かにし、而して他の社會科學から分たるゝ所以を明かならしむるが故に、經濟學の科學的存立の理由に關する最も根本的なる問題が此處に存してゐる。斯くの如き經濟學方法論の問題は一方社會現象を對象とする一切の科學的思索を自然科學の影響から救ひ出さんとする哲學的思想と、他方社會學の發達とに伴はれて、最近特に獨逸に於て多く論ぜられて居る事は既に人の知る所である。

吾人が今本論に於て其の經濟學方法論の根本思想を窺はんとするシュパンは、先づ社會學的思索